

三浦七郎氏よりの近況

本會幹事であつて、北支新政府建設總署の技監に就任せられた、前内務省下關土木出張所長三浦七郎氏から、去月八日安藤土木局長宛に、同派遣官一行の渡支以來の動靜に付いて、左記の如く其の近況を寄せられた。

派遣官一行日誌

五月二十日（金曜日）

三浦技監、佐野科長、小澤科長三名軍用飛行機にて福岡出發。同夕北京着、北京ホテル宿泊。

翌日より軍特務部主脳部に會見、種々打合を爲し、建設總署主脳部と會見し種々懇談を爲す。又特務部に於ては派遣官の待遇問題等に付連日協議を爲す。

五月二十八日（土曜日）

午後九時三十分第二回派遣官到着す。

説苑

到着者、平尾勝、高橋惠、佐藤寛政、鹽原三郎、猪瀬寧

男、渡邊正雄、澁谷和夫、竹内修、柳井三郎、畑中次雄

望月一輔、笠原昌春の十二名。

正陽門驛ニ三浦技監一行出迎。北京ホテルに於て三浦技監より一場の挨拶あり、終つて乾盃を爲す。濟南、天津等現場に向ふ者は北京ホテルに投宿し、其の他の者は松屋ホテルに宿泊す。

五月二十九日（日曜日）

第二回到着者一行は、三浦技監の案内にて日本陸軍特務部を訪問し、特務部長喜多少將、第一課長佐伯大佐、溝淵少佐、總務課、第一課關係官に夫々赴任の挨拶を爲す。尙近く太原、濟南へ赴任する者は北京市内及萬壽山泰山方面を見學す。

五月三十日（月曜日）

第二回到着者一行は、三浦技監及江守參事の案内にて建設總署を訪ね、殷同署長の程公路局長に新任の挨拶を爲す。殷同署長は内地の各位を迎へ喜びに堪へない、支那は二千年前より既に土木事業に着手して居る。今後中國日本と提携して此の事變後に於ける建設事業に努力し度いと思ふ、皆さんも種々不自由ありませんが身體を大切にせられ度い。尙何か御希望があれば、何んでも申出られたい。との挨拶を爲す。

五月三十一日（火曜日）

技監始め關係者特務部に於て、待遇問題其の他に付種々協議す。現地第一線に赴任する者は北京市内、通州及附近現場の見學に出る。

六月一日（水曜日）

一行建設總署を訪ね、關係局長等に夫々赴任の挨拶を爲す。第三回派遣官は午後九時三十分北京驛に到着す。到着者、田寺元治、由良民之助、立神弘洋、秋草勳、山田正平、小山猛三。

北京ホテルに於て乾盃を爲し、三浦技監より挨拶あり。田寺元治、由良民之助、小山猛三は北京ホテルに、其の他は松屋ホテルに宿泊す。

六月二日（木曜日）

建設總署は五月の節句にて執務休みなれども、三浦技監始め關係者特務部に執務す。

第三回到着者一同は、前回同様特務部に於て部長喜多少將始め關係者へ挨拶す。

同夕技監招待の懇親會を豐澤園に開く。

一同元氣旺盛にて愛國行進曲を歌ひ、其の意氣既に支那四百餘州を呑むの概ありたり。

六月三日（金曜日）

第三回到着者の一行は、三浦技監の案内にて建設總署に赴き新任の挨拶を爲す。

建設總署に勤務する日系官吏の薦任官以上は、正午より行政委員會に於て王克敏氏に面會すれば、同氏は一同に對し歓迎の挨拶を爲せり。尙一行は同氏主催の軍部、建

設總署聯繫の午餐會に臨み、種々意見の交換を爲せり。
右終つて行政委員會前門ベルコニーにて、記念撮影を爲す
本日午後三時より軍特務部に於て薦任以上の初會合を爲せり。

三浦技監は一場の挨拶を爲し、身分の保障に付ては

1. 相當期間中華民國に於て活動せし者にて交代を必要とするとき。

2. 病氣其他止むを得ざる理由に依り勤務を續けること能はざるとき。

3. 長く僻陬の地に勤務する爲、其の技術が科學の進歩に伴はざる慮あるとき。

4. 其他當方に於て相當の理由ありと認めたるとき。

以上の如き理由に於ては優先的に内地官吏と交代せしめ或は内地官吏に復活し得らるゝ様努力す。

故に諸君は

一 日本を代表する官吏として東洋求遠の平和の爲に努力せられ、我儘若くは自分一個の勝手なる行動を爲さ

ず、官吏としての體面を保持せられたし。

二 宮城を拜し心神を清淨にして執務せられたし。

三 毎日一回位會合し互に勉勵し合ふこと。

四 勤務地は別表の通り決定せるを以て夫々近く赴任せられたし。

五 我々は中國人と雖も一視同仁の心持を以て働きたし
六 待遇其他の他に付きては折角努力中に屬す。尙近く恩

給年限に達する者に對しては軍屬となる様努力す。

以上の如き挨拶あり終つて、江守參事は赴任當初よりの公路方面に付て、本莊參事は水利方面を、山崎參事心得は都市方面の説明を爲せり。

六月四日（土曜日）

三浦公館を物色し、當北京市内に勤務する者の宿舍選定に當る。

午後十二時三十分第四回派遣官（委任官）

一行到着す。一行は名古屋ホテルに於て晝食後、特務部に於て關係當局に挨拶を爲し引續き建設總署に挨拶の爲赴

く。到着者は中村鶴藏を除き二十四名。

六月五日（日曜日）

第一回の参事會議を開催す。

三浦技監、江守、田寺、由良、本莊、山崎各参事、高橋

科員出席。

會議は人員の補充問題、各工程局の組織權限、各局豫算の決定、出張旅費額及日額旅費、機械器具の購入、自動車の配置、前渡金關係、官舎、合宿等に關し種々協議を爲す。

同夕頤園に於て全員初顔合會を行ふ。一行大元氣にて東洋平和建設の爲めの礎石たらんことを契ふ。

六月六日（月曜日）

太田橋と城光寺橋との新粧成る

富山縣土木課

此の日全員軍特務部に集合し記念撮影を爲す。同日江守、本莊良の各参事及高橋科員は、建設總署に股署長と會し前渡金問題、乗用自動車及電話機、其の他機械器具等に關し種々打合を爲せり。

六月七日（火曜日）

午前七時三十分、天津及濟南に勤務することゝなりたる一行は、本莊参事の案内の下に正陽門を出發し勇躍任地に赴く。北京に残る者一同は日の丸を打振り壯途を祝す。尙石家莊行三名（白石、福田、木歩士）は午前八時北京前門驛を悲壯なる決意を眉宇に現はし出發す（老田技士案内）。